

オカチ—オキ

々。」とあるから、上古以來之を賞進したことが明らかである。

オカシウマ 御貸馬 加賀藩では四百五十石以上の士は常に馬を蓄へたが、それ以下でも奥小將・横目・使番等綱要の職にある者は騎行を必要としたため、畜養の資を興へて私宅に厩を設けさせ、又は公厩のものを貸與した。この制度は寛文中に前田綱紀が定め、その實施は延寶三年からであった。後に在山三太夫が三十人組頭の時、出願して御貸馬を止められたといふから、明和・安永の頃までは行はれてゐたと見える。

オカシゴヤ 御貸小屋 江戸邸内にあつて諸士以下の寄宿する爲貸與する長屋をいふ。勿論是等は御貸小屋以外に住するを得なかつた。古い時代では金澤にも、京の工人の如き他より来た者を置く御貸小屋があつた。

オカセガハ おかせ川 鳳至郡釜屋谷の領山から流出し、輪島領で輪島川に注ぐ。流程四軒許。

オカチ 御歩 ↓カチ 歩。

オカチバン 御歩橋 金澤橋梁記に「御かち橋、油車へ行く道」とある。金澤宮内橋から油車へ出る往來の橋で、倉月用水に架けられる橋をいうたのである。

オカチマチ 御歩町 金澤の町名。御歩の邸地で、四ノ所に在つたから、御歩町(もと改作町、今茶木町一部)。水溜御歩町(今水溜町)。油車御歩町(又は水車御歩町、今油車一部)。観音下御歩町(今御歩町)に區別して居た。今は観音下御歩町のみ單に御歩町といつてゐる。

屬し、左官を監督使役することを職とするもの。前田利家の金澤に入城の頃召抱へられたのがその始である。元和元年には堀越源右衛門が召されて百石を賜はり、寛文三年に橋本長兵衛・栗里太郎左衛門、延寶元年に堀村三右衛門、同六年山崎與兵衛・木越源大夫が各召出されて居る。

オキ 沖 能美郡輕海郷に屬する部落。
オキ 沖 河北郡鞍月庄に屬する部落。
オキ 沖 鹿島郡良川の内の小字。
オキイチロヘ 隱岐市郎兵衛 延寶六年御歩となり、享保元年組外に列して百三十石を受けたが、五年自殺して家断絶した。

オキカクサエモン 沖覺左衛門 長連龍の家臣。慶長五年八月淺井細手に於いて丹羽長重の臣佐々七兵衛の爲に討死した。
オキタツエモン 沖辰右衛門 安永四年祖父豊太左衛門直規の遺知二百石を受け、組外に列したが、天明八年九月十一日夜粟崎に於いて打擲せられ、四十一歳を以て歿した。一類等傳つて之を病死と届出たが、後に露顯し、寛政三年七月十日跡目負着せざることを仰出された。

オキチブザエモン 隱岐治部左衛門 江州佐々木近江守の臣隱岐右近の子。府中に於いて前田利家に仕へ、二百石を賜はり、天正十八年三月八王子の役に討死した。治部左衛門から四代の孫市郎兵衛、享保五年自殺して家断絶した。

オキツヒメジンジャ 奥津姫神社 鳳至郡船倉島に鎮座する。式内等舊社に記に「奥津比咩神社。式内一座。輪島海中船倉島鎮座。稱「西宮」或云船倉鎮座。船倉島舊名奥津島。祭神奥津媛命。舊傳云。船倉鎮現奥津媛命。奥津媛命。故重藏宮船倉同唱也。」とある。
オキツヤクシ 奥津薬師 ↓イオウイン 醫王院(鳳至)。
オキナオシヨウ 翁和尚 加賀の人。正直にして詔諫を離れ、曆麻に法華經を讀誦して餘念なく、形骸は俗であるが、所行は即ち細徒に異ならなかつた。京に居り、後往生寺に到り、樹下に座して瞑したが、命終の時に尙辯壇品の「毎自作是念、以何令衆生、得人无上道、速成就佛身。」の偈を誦してゐた。詳しくは古事談に記される。
オキナシンゴロウ 翁新五郎 狂言師で鳳至郡小石に住んで居た。天正九年六月遊佐頼光父子に、に潛匿して居たのを、長連龍兵を遣はして捕へしめ、次いで七尾池田の館に於いて刎首したとある。

オキナツカ 翁塚 加賀・能登二國中で芭蕉追悼の爲に建てた碑は左の如くである。

(一)大聖寺全昌寺—庭掃いて出るや寺に散る柳、芭蕉。終夜秋風きくや裏の山、曾良。
(二)山中の黒谷—山中や菊はたをらじ湯の匂ひ、芭蕉。裏面は「文久とりのとしなかの秋友」連であらう。
(三)那谷の那谷寺—石山の石より白し秋の風、芭蕉。

(四)小松建聖寺—しほらしき名や小松ふく萩芒、芭蕉。既白建。
(五)小松多太神社—あなむざん甲の下のきりくす、芭蕉。

(六)美川淨願寺—芭蕉翁北枝。時寛保三歲□中二日願主蘆白若推。裏は半百忌、撫てする風雅の風やかへり花。この塚はもと世尊院の境内に在つたものである。
(七)金澤兼六園—あか／＼と日はつれなくも秋の風、芭蕉。この碑はもと弘化二年悠平が卯辰山麓に建てたものである。
(八)金澤成學寺—あか／＼と日はつれなくも秋の風、芭蕉。寶曆五亥秋葵水連中建。
(九)金澤春日社—山梁や梢をかける水の音、芭蕉。この碑を希因が建てたといふが、今所在明らかでない。
(十)金澤八幡社—山さむし心の底や水の月、芭蕉。金澤小立野連中とあつたらしいが、今磨滅して讀み得ぬ。萬延の頃建てたのであらう。もと寶幢寺境内にあつたが、現に上野八幡宮に在る。
(十一)神谷内野蛟神社—芭蕉翁。うらやまし浮世の北の山さくら。寶曆壬午□春□。
(十二)俱利伽羅峠—芭蕉翁。義仲の寢覺の山か月かなし。擬見風所造碑。これは馬佛の建てたものであり、地城からいへば越中に屬する。

(十三)富來海岸—海くれて鴨の聲ほのかに白し、芭蕉。
(十四)小島妙觀院—海くれて鴨の聲ほのかに白し、芭蕉。貸馬の繋がであるや秋の風。花咲いて待ちあふせたり二日月。爲竹塙書。左側文久三年癸亥冬十一月木公舍竹塙建之。この碑は岩城樂齋と妻明々尼が建てたといふから、右の句はその二人なるべく、竹塙は樂齋と同人であらう。
(十五)田鶴濱神社—なほ見たし花に明ゆく神の顔、芭蕉。

右の外諸國翁墳記に、「翁塚加州金澤に在、萬子建」と記されてゐるが、今所在を知らぬ。